

令和7年度 インターネット上の偽・誤情報等への対策技術の開発・実証事業

**SNSにおける偽情報・真偽不明情報の  
市民参加型可視化・分析技術の開発・実証  
成果報告書 概要版**

2026/3/19

技01\_一般社団法人コード・フォー・ジャパン

# 目次

## 1. 開発・実証における対策技術の開発

1. 開発技術によりアプローチする課題・目指す姿
2. 技術開発の取組・成果

## 2. 開発・実証における社会実装に向けた取組

1. 社会実装に係る取組・成果
2. 社会実装時のビジネスモデル等
3. 技術開発及び社会実装にあたっての課題・展望
4. 事業の拡大に向けた中長期的な計画

# 目次

1. 開発・実証における対策技術の開発
  1. 開発技術によりアプローチする課題・目指す姿
  2. 技術開発の取組・成果
  
2. 開発・実証における社会実装に向けた取組
  1. 社会実装に係る取組・成果
  2. 社会実装時のビジネスモデル等
  3. 技術開発及び社会実装にあたっての課題・展望
  4. 事業の拡大に向けた中長期的な計画

# 1-1. 開発技術によりアプローチする課題・目指す姿

## 開発技術によりアプローチする課題

本技術がアプローチする課題は、**日本における偽・誤情報関連の定量的研究の少なさとツール開発の少なさという2つの課題**である。研究が少ないと有効な対策のための分析ができない。対策を立てたととしてもツール開発によって効率的かつ効果的な対策を実行できない。

そして、この2つの課題の原因として、高額なX APIの料金プランが挙げられる。2023年までX（以前のTwitter社）は学術研究向けにAPIの無料プランを提供しており、多くの研究者がこのAPIを利用して研究やツール開発を行っていた。日本は特にXの利用者が多く、学術研究向けの提供に依存していたために研究やツール開発に影響を与えている。

※2026年2月に料金は従量課金に変更されたが多額の費用が必要なことに変更は無し

### X APIの価格表

| 無料   | 基本  | プロ   |
|--|---|--|
| 月額0ドル  | 月額200ドル   | 月額5,000ドル  |
| テスト用   | 趣味やプロトタイプ向け   | ビジネスを拡大するスタートアップ向け   |
| 含まれるもの:  | 含まれるもの:   | 含まれるもの:  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 1件のプロジェクト</li> <li>✓ 1アプリ / プロジェクト</li> <li>✓ 100件 / 月 (閲覧数)</li> <li>✓ 500件 / 月 (書き込み)</li> <li>✓ Xアクセスでログイン</li> <li>✓ 基本v2エンドポイントアクセス</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 1件のプロジェクト</li> <li>✓ 2つのアプリ / プロジェクト</li> <li>✓ 15,000件 / 月 (閲覧数)</li> <li>✓ 50,000件 / 月 (書き込み)</li> <li>✓ 完全なv2エンドポイントアクセス</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 1件のプロジェクト</li> <li>✓ 3つのアプリ / プロジェクト</li> <li>✓ 1,000,000投稿 / 月 (閲覧数)</li> <li>✓ 30万件 / 月 (書き込み)</li> <li>✓ 全アーカイブ検索アクセス</li> <li>✓ フィールドリテラブルなストリームアクセス</li> <li>✓ 優先サポート</li> </ul> |

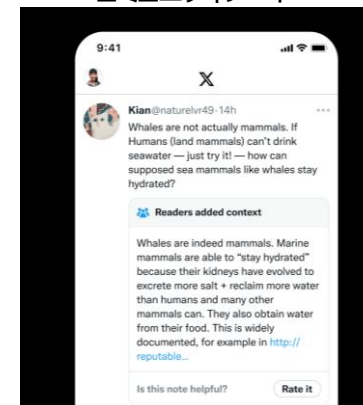
<https://docs.x.com/x-api/introduction>

## 上記課題を踏まえ目指す姿・ゴール

Xが無料で公開しているコミュニティノートのデータに着目し、BirdXplorerの開発を進めている。コミュニティノートは、真偽不明の投稿に対してユーザーが集合知で根拠情報を付与・評価する仕組みであり、**真偽不明情報の拡散実態を無償で把握できる希少なデータソース**として、研究者や報道機関から注目を集めている。

高額なX APIがなくともコミュニティノートのデータを活用することで、研究者や報道機関が偽・誤情報の実態を定量的に分析し、対策を講じることができる。BirdXplorerはこのデータを可視化・分析することで、偽・誤情報の実態把握を研究・報道を通じた対策の起点とすることを目指している。そのために、ツール開発にとどまらず、研究者や報道機関、一般市民と積極的に連携し、行政や民間企業とは異なる市民主体のアプローチで偽・誤情報対策を推進していく。

### コミュニティノート



<https://communitynotes.x.com/guide/ja/about/introduction>

# 1-2. 技術開発の取組・成果

## ダッシュボード

### 限定公開したダッシュボード



2026年2月に研究者や報道関係者等を対象とした**限定公開版BirdXplorerをリリース**した。

BirdXplorerは取得したXのコミュニティノートのデータをもとにユーザーに対して真偽不明情報の全体像や傾向、個別の投稿情報をダッシュボード形式にて一元的に提供するウェブアプリケーション。

ダッシュボードの主な機能として、「コミュニティノート数と公開率の推移」「評価分布」「ナラティブ分布」「検索」がある他、「選挙時の特集ページ」や「月次のレポート」も開発した。

コミュニティノートという大量のデータをグラフやレポートなどユーザーの理解しやすい形で可視化するとともに

### ダッシュボードの主な機能

#### コミュニティノート数と公開率の推移：

過去1年のコミュニティノート数と公開率の推移を表示。月次でどのような変化があるかが分かる

#### 評価分布：

コミュニティノートに対する評価をもとに期間中のコミュニティノートをプロット。注目されているコミュニティノートが分かる

#### ナラティブ分布：

生成AIを活用してコミュニティノートのナラティブ（言説）を分類。どのようなナラティブが流布しているのかが分かる

#### 検索：

キーワードでの検索の他、期間や言語、トピックでの絞り込みによってコミュニティノートや投稿の検索ができる

## 1-2. 技術開発の取組・成果

### データパイプライン

#### 【開発の背景：高額な料金】

2023年のX API有料化（月額約75万円～）により、従来の「すべてのデータをAPIで取得する」方式では、公共性の高いツールの継続が困難となった。

#### 【解決策：3つのパイプライン】

データの常時取得ではなく、「基本は無償データ、必要な時だけAPI利用」というアプローチ。3つのデータ・パイプラインという独自の設計を採用。

#### データパイプラインの比較

|         | シングル    | ハイブリッド      | リアルタイム    |
|---------|---------|-------------|-----------|
| データ収集方法 | 公開データ   | 公開データ+X API | オンデマンド収集  |
| コスト     | 無料      | 有料（3-4万/月）  | 無料        |
| 主な用途    | 常時監視・蓄積 | 影響力測定       | 即時反映      |
| 技術的成果   | 運用費の抑制  | 分析インサイトの深化  | リードタイムの短縮 |

### 成果

#### X API利用料を削減：

全件取得を廃し、有償データをスポット利用する設計へ転換。**95%以上のコストカット**を実現。

#### 速報性の実現：

2日というKPIを上回る**平均31時間30分（内、BirdXplorerの処理時間は1時間）**での可視化を実現。

# 目次

1. 開発・実証における対策技術の開発
  1. 開発技術によりアプローチする課題・目指す姿
  2. 技術開発の取組・成果
  
2. 開発・実証における社会実装に向けた取組
  1. 社会実装に係る取組・成果
  2. 社会実装時のビジネスモデル等
  3. 技術開発及び社会実装にあたっての課題・展望
  4. 事業の拡大に向けた中長期的な計画

## 2-1. 社会実装に係る取組・成果

### 社会実装に向けた取り組み

報道・研究・企業など43のステークホルダーと接触した内、14件が関係構築、**7件が具体的な連携に至った**。BirdXplorerでは開発と並行して、社会実装を進めることを重視した。特に2025年度は研究者や報道関係者に向けたサービスリリースであるため、イベントの開催や参加などのネットワーキングによって研究者や報道関係者と多くのコンタクトをとった。そして、報道関係者に対しては参議院選挙や衆議院選挙のデータを提供すると言った具体的な連携を実施した。

次年度以降の社会実装に向けて研究者や報道関係者などの関係構築も進んでいる。今後の具体的な社会実装についても検討をしている取り組みもあり、継続的に社会実装を進めていきたい。（具体的な社会実装に向けた連携の成果は次頁参照）

#### 認知拡大から連携までのパイプライン

|          | 認知      | 初回接触 | 関係構築 | 連携 |
|----------|---------|------|------|----|
| アカデミア    | -       | 5    | 6    | 2  |
| 報道関係     | -       | 10   | 5    | 3  |
| 企業・団体    | -       | 3    | 1    | 1  |
| 海外研究者・組織 | -       | 4    | 2    | 1  |
| 合計       | 195 (※) | 22   | 14   | 7  |

#### 各ステージの定義

認知：イベント参加者等の人数。内訳は不明であるため合計数のみ記載

初回接触：打ち合わせなど個別に対応したステークホルダー数

関係構築：複数回の打ち合わせをするなど関係性が築けているステークホルダー数

連携：共同研究や学会発表、記事、イベント実施、寄付・協賛などの実績

## 2-1. 社会実装に係る取組・成果

### 社会実装の成果

BirdXplorerを活用した独自分析により、2026年3月の計算社会科学会で「日本語空間におけるLLMの情報参照傾向」を発表した。本事業で開発した技術が、**偽・誤情報の定量研究として結実**した事例である。この研究では、主要な生成AIのモデルが真偽不明ナラティブに対してどのような情報を参照する傾向があるかを分析した。真偽不明ナラティブを日本語空間で実際に争点化している話題群を広く、なおかつ、主観を入れずに選定するため、BirdXplorerを利用してデータを抽出した。本研究は、研究者や報道関係者、企業関係者から高い関心が寄せられており、2026年度以降もBirdXplorerの活用事例として更なる成果が期待できる。

計算社会科学会

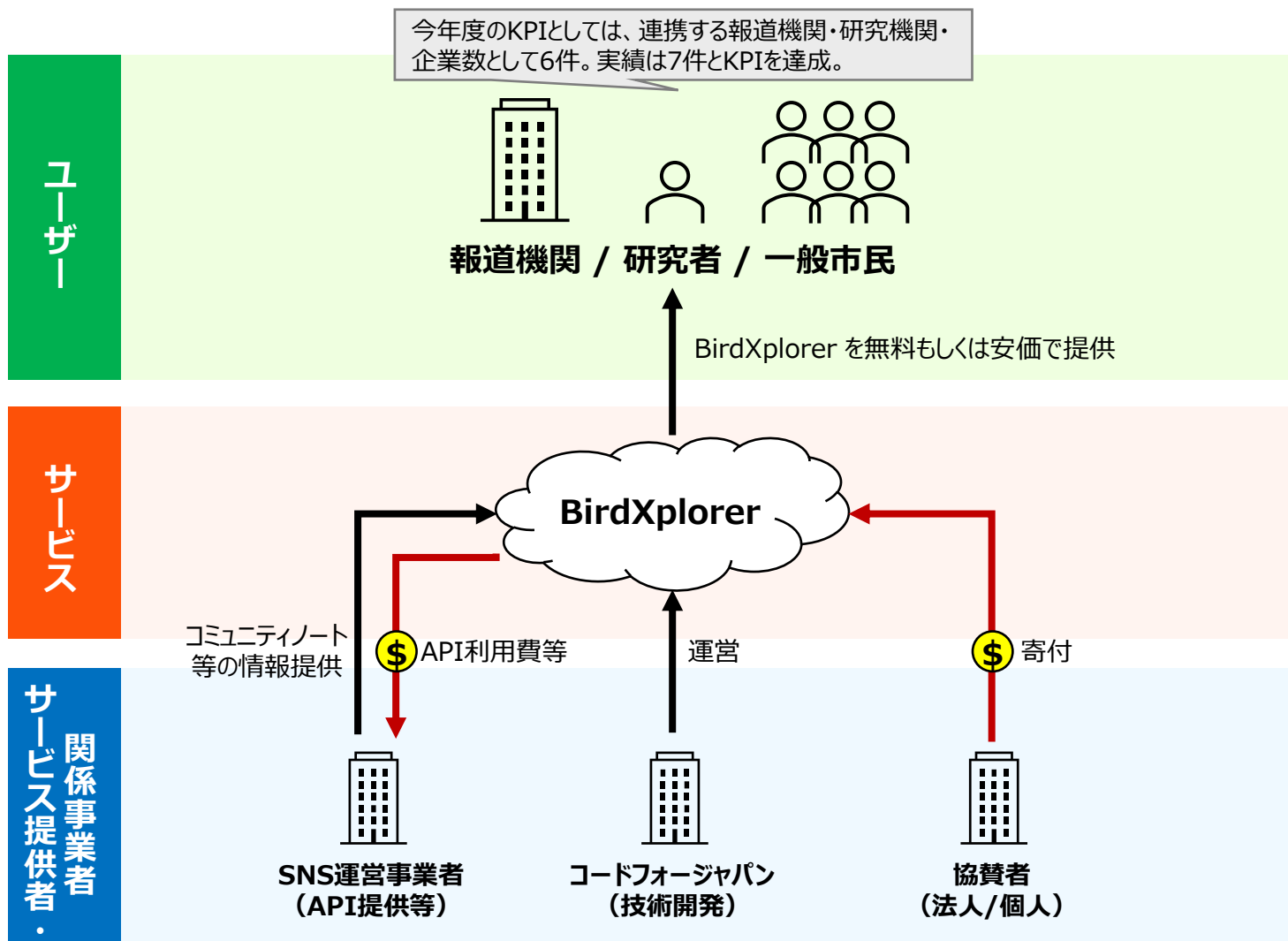


また、2025年参議院選挙および2026年衆議院選挙では、法政大学藤代教授と協力し、報道関係者へのデータ提供を実施した。その結果、読売新聞と西日本新聞の**記事で参議院選挙のデータが使用**された。

- 読売新聞「真偽不明のX投稿、他の利用者がつけた背景情報「コミュニティノート」は9割公開されず」(2025/7/12配信)
- 西日本新聞「【あな特SNSと選挙】「X」コミュニティノート、誤情報対策にならず 協力者が情報補う…非公開9割」(2025/7/17配信)

## 2-2. 社会実装時のビジネスモデル等

### 社会実装時のビジネスモデル



## 2-2. 社会実装時のビジネスモデル等

### ユーザ・導入先の詳細とそのペインポイント

本事業において、研修者や報道機関との連携、民間企業への営業試行といった社会実装に向けた取り組みを実施した。その結果、多額の収入を得るようなビジネスを目指すことは困難であるが、**法人や個人からの寄付を獲得することは可能**であると考えている。

寄付を主体とした継続可能なビジネスモデルとして成立させるためには、API利用料やサーバ代、生成AI利用料などの費用やメンテナンスの工数を抑制することがユーザ獲得と同じく重要である。今年度事業において運用費用を抑制を主眼に置いて開発を進め、運用費用の試算も行った。その結果、**運用費用は年間200万円**となる見通しである。

この運用費用を賄うためには法人寄付を6社、個人寄付を50人が必要と推計している。今年度、ヒアリングを3社に実施したところ、**1社からは一般公開と一定のユーザー利用を条件に寄付をしたい**との話しをいただいている。今後、一般公開を行い、利用者などの定量的成果を多くの法人や個人にアピールすることで寄付を募っていきたい。

| ユーザ候補        | ビジネスモデル | ペインポイント（課題）   | 提供価値  |
|--------------|---------|---|---|
| 研究者          | 無償      | <ul style="list-style-type: none"> <li>研究で利用できる安価なSNSデータの不足</li> <li>学生が利用できるSNSのツール</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>無料で利用できるSNSのデータ及びコミュニティノートに関する専門知識</li> <li>無料で利用できるSNSの検索ツール</li> </ul> |
| 報道機関         | 寄付/無償   | 報道で利用できる安価なSNS情報の不足   | 無料で利用できるダッシュボードやデータ   |
| 一般市民         | 寄付/無償   | 具体的にどのような偽・誤情報があるのかが分からない   | ダッシュボードで真偽不明情報の傾向を知ることができる  |
| コミュニケーション系企業 | 寄付      | 偽・誤情報対策をしている研究機関や非営利団体と連携したい  | BirdXplorerや選挙等における分析   |
| 外資系IT企業      | 寄付      | ITを活用した活動に寄付をしたいが、日本国内では不足している  | AI等の技術を用いて、注目度の高い課題に取り組んでいる   |

## 2-3. 技術開発及び社会実装にあたっての課題・展望

### 技術開発及び社会実装にあたっての今後の課題

#### 技術開発

2026年2月のイベントでのフィードバックや技術検証から以下の課題があると認識している。

- ナラティブの具体的な内容が不明
- コミュニティノートの傾向の追加
- UIやユーザビリティの改善
- データ処理の時間と費用

#### 社会実装

限定公開から継続的な一般公開に移るには以下の課題がある。

- ユーザーの拡大
- 寄付モデルの確立

### 上記課題を踏まえた今後の展望

技術開発と社会実装を同時並行に進めることで、収支を均衡させて継続的にサービスを提供できるようにする。

#### 技術開発

- 追加機能の開発
- UIやユーザビリティの改善
- データ処理の効率化

#### 社会実装

- ユーザーとユースケースの拡大
- 寄付が見込める企業へのアプローチ

## 2-4. 事業の拡大に向けた中長期的な計画

### 事業の拡大に向けた中長期的な計画

BirdXplorerは、偽・誤情報の有効な対策を持続的に提供していくことを目指している。そのためには、無料提供による**利用者の拡大と寄付を中心としたビジネス確立の両立**を図っていく。

社会実装・ビジネス開始・ビジネス確立の3つのフェーズを計画している。2026年度にダッシュボードを一般公開し、2027年度に報道機関や企業等からの収益を上げ始め、**2028年度に収支均衡**まで持って行く。

#### 社会実装フェーズ (2026年度)

一般向けのダッシュボードを開発するとともに、2025年度に開発した機能を報道機関等へ提供し、社会実装を進める。

##### 【開発】

2025年度実証をもとに以下を開発する。

- ナラティブの具体的な内容が分かる機能やトレンドを把握できる機能の追加開発
- UIやユーザビリティの改善
- データ処理の効率化

##### 【社会実装】

- 研究者や報道関係者と連携した活用事例の創出
- 成果をもとに法人寄付の獲得に向けた営業活動

#### ビジネス開始フェーズ (2027年度)

前年度実証を元に、機能の改善を実施。サービスの持続的な提供を目指して報道機関や企業との交渉を開始する。

##### 【開発】

- 2026年度の開発と実証におけるフィードバックを元にした改善を実施し、利便性を向上させる
- X以外のプラットフォームがコミュニティノートに類似した機能のデータを公開する場合は、対応を検討する

##### 【社会実装】

- 一般利用者の拡大に向けたイベントや成果発表等のPR
- 営業活動の本格化
- 海外に向けた発信の強化と連携の模索

#### ビジネス確立フェーズ (2028年度以降)

企業や団体からの収入を一定規模得ることで、収支を均衡させる。2028年度以降の活動の可能性としては、大きく2つの選択を検討している。

1. 海外展開：日本語を対象としているBirdXplorerを英語などにも拡大し、海外での利用拡大を目指す
2. 新規サービス開発：BirdXplorerと連携する別のサービスを開発し、偽・誤情報対策を進める